

多文化共生についてのアンケート結果

本県には、44,735人の外国人が住んでいます。(令和7年12月末現在:住民基本台帳人口)総人口に占める外国人住民の割合は3.19%で、県民の約31人に1人が外国人ということになります。

県では、滋賀県多文化共生推進プラン(第3次改定版)を策定し、「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などのちがいににかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる地域社会」を目指し、多文化共生施策に取り組んでいます。

多文化共生の推進にあたり、県民の皆様の多文化共生についての意識や外国人県民との関わりの現状について把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

★調査時期:令和8年6月

★対象者:県政モニター300人

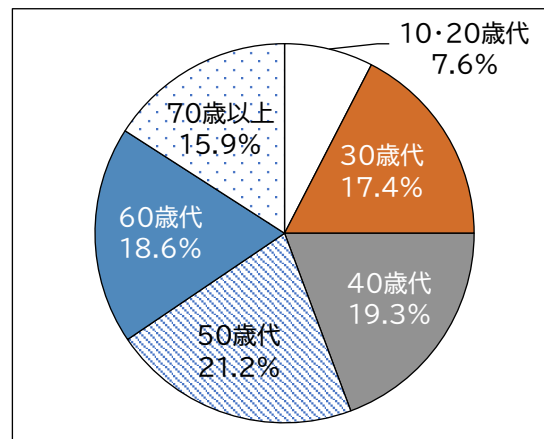
★回答数:264人(回収率88.0%)

★担当課:総合企画部国際課

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

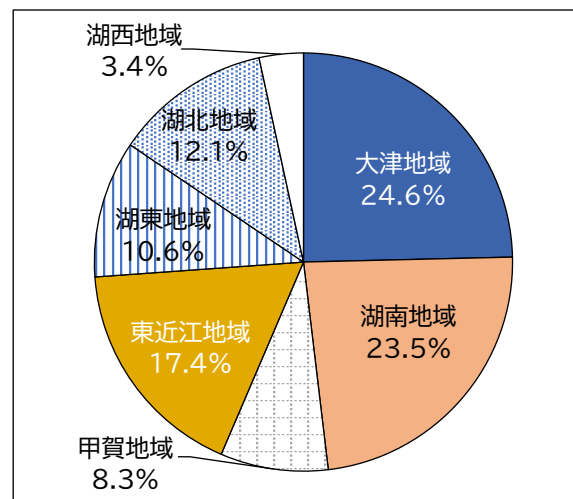
◆年代

項 目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	20	7.6
30歳代	46	17.4
40歳代	51	19.3
50歳代	56	21.2
60歳代	49	18.6
70歳以上	42	15.9
合計	264	100.0



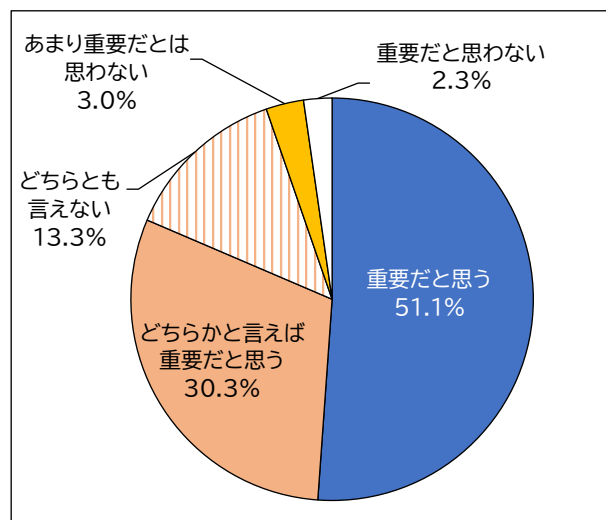
◆地域

項 目	人数(人)	割合(%)
大津地域	65	24.6
湖南地域	62	23.5
甲賀地域	22	8.3
東近江地域	46	17.4
湖東地域	28	10.6
湖北地域	32	12.1
湖西地域	9	3.4
合計	264	100.0



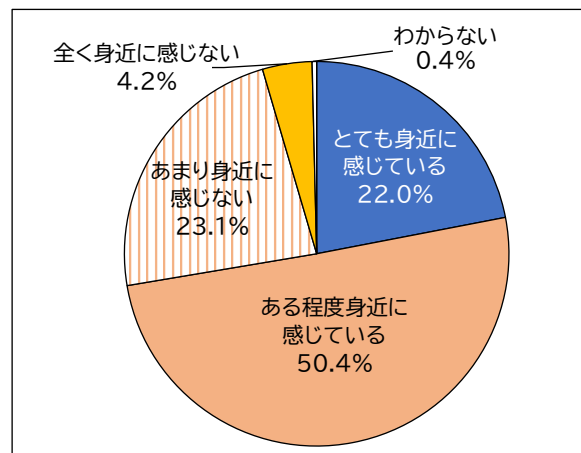
問1 「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていく。」多文化共生社会の実現について、あなたはどのように思いますか。
(回答チェックは1つだけ n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
重要だと思う	135	51.1
どちらかと言えば重要だと思う	80	30.3
どちらとも言えない	35	13.3
あまり重要だとは思わない	8	3.0
重要だと思わない	6	2.3
合計	264	100.0



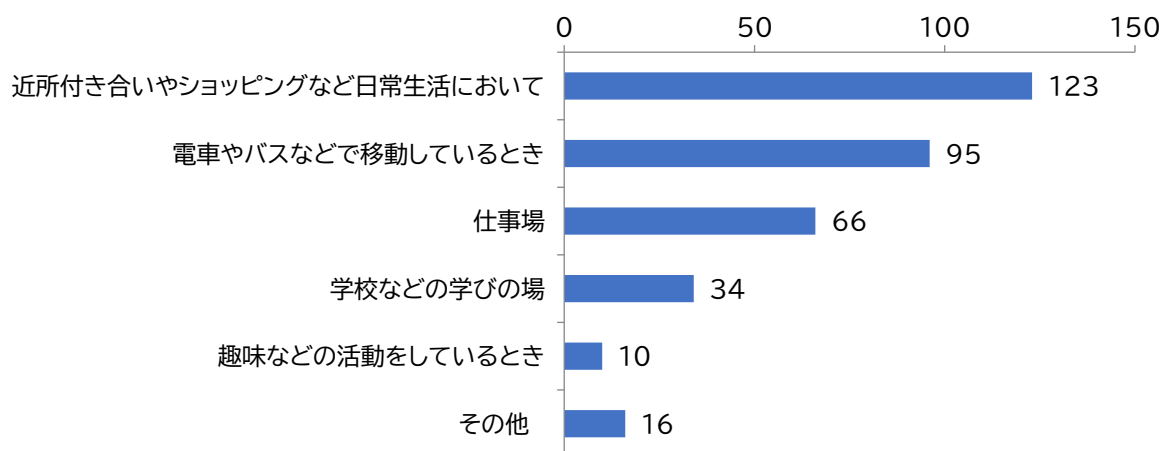
問2 あなたは、普段生活をしていて、県内に在住する外国人(以下、「外国人県民」という。)の存在を身近に感じますか。次の中から当てはまるものを選択してください。(回答チェックは1つだけ。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
とても身近に感じている	58	22.0
ある程度身近に感じている	133	50.4
あまり身近に感じない	61	23.1
全く身近に感じない	11	4.2
わからない	1	0.4
合計	264	100.0



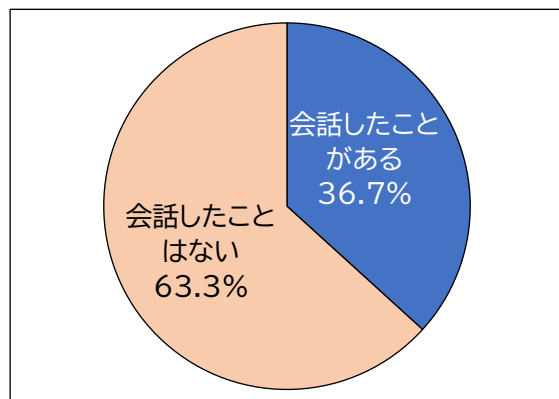
問3 問2で「とても身近に感じている」または「ある程度身近に感じている」を選択された方におたずねします。どのような場面で外国人県民の存在を身近に感じますか。(回答チェックはいくつでも。 n=191)

項 目	人数(人)	割合(%)
近所付き合いやショッピングなど日常生活において	123	64.4
電車やバスなどで移動しているとき	95	49.7
仕事場	66	34.6
学校などの学びの場	34	17.8
趣味などの活動をしているとき	10	5.2
その他	16	8.4



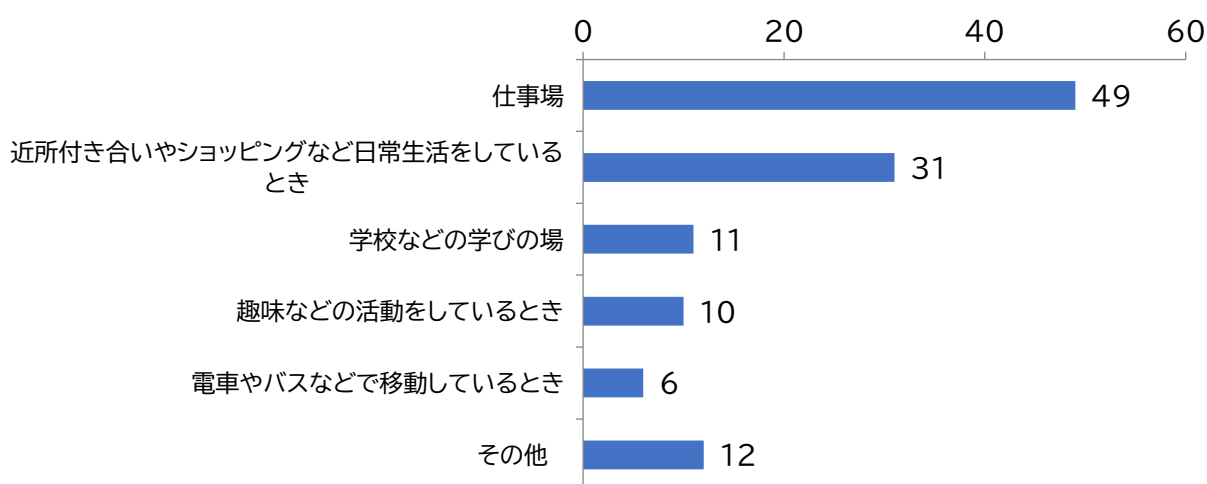
問4 あなたは過去3ヶ月間に、外国人県民と会話(単なる“こんにちは”以上)をしたことはありますか。
(回答チェックは1つだけ。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
会話したことがある	97	36.7
会話したことはない	167	63.3
合計	264	100.0



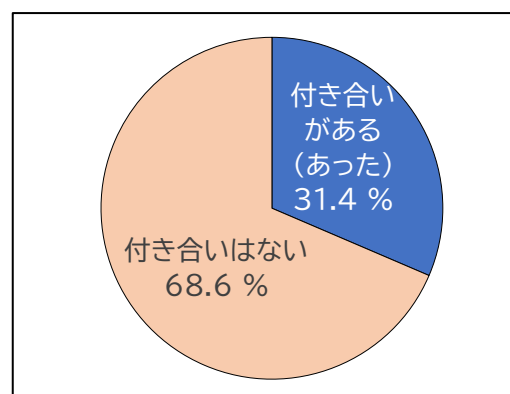
問5 問4で「会話したことがある」を選択された方におたずねします。
どのような場面で会話しましたか。(回答チェックはいくつでも n=97)

項 目	人数(人)	割合(%)
仕事場	49	50.5
近所付き合いやショッピングなど日常生活をしているとき	31	32.0
学校などの学びの場	11	11.3
趣味などの活動をしているとき	10	10.3
電車やバスなどで移動しているとき	6	6.2
その他	12	12.4



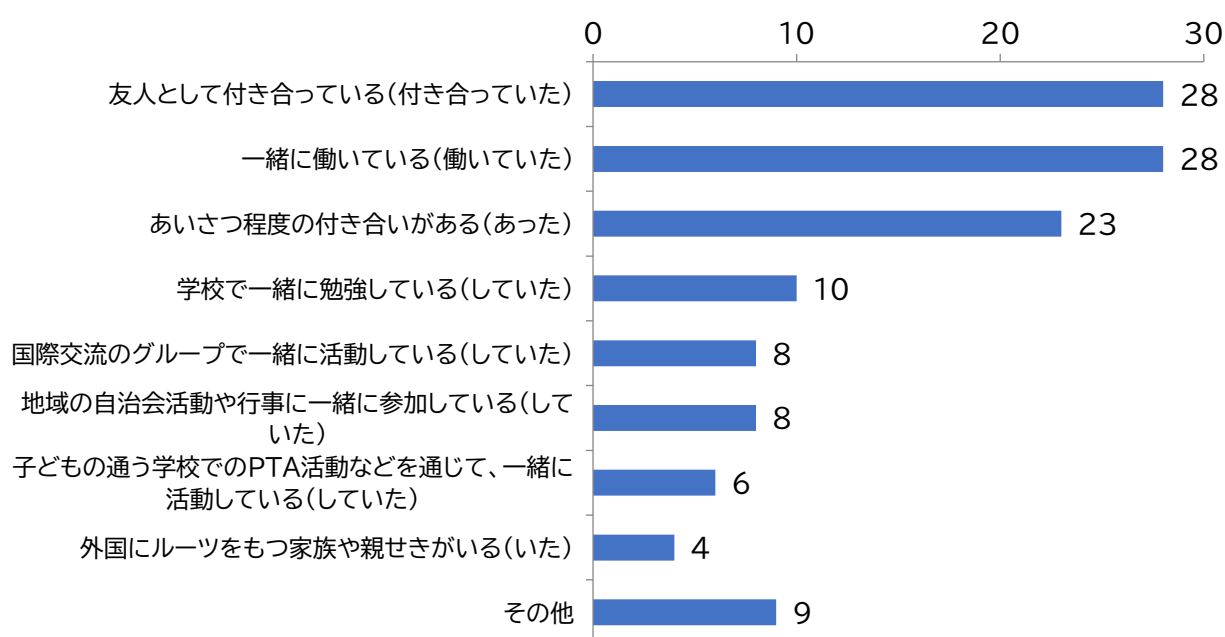
問6 あなたは外国人県民との付き合いがありますか。
(過去の経験を含む)(回答チェックは1つだけ。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
付き合いがある(あった)	83	31.4
付き合いはない	181	68.6
合計	264	100.0



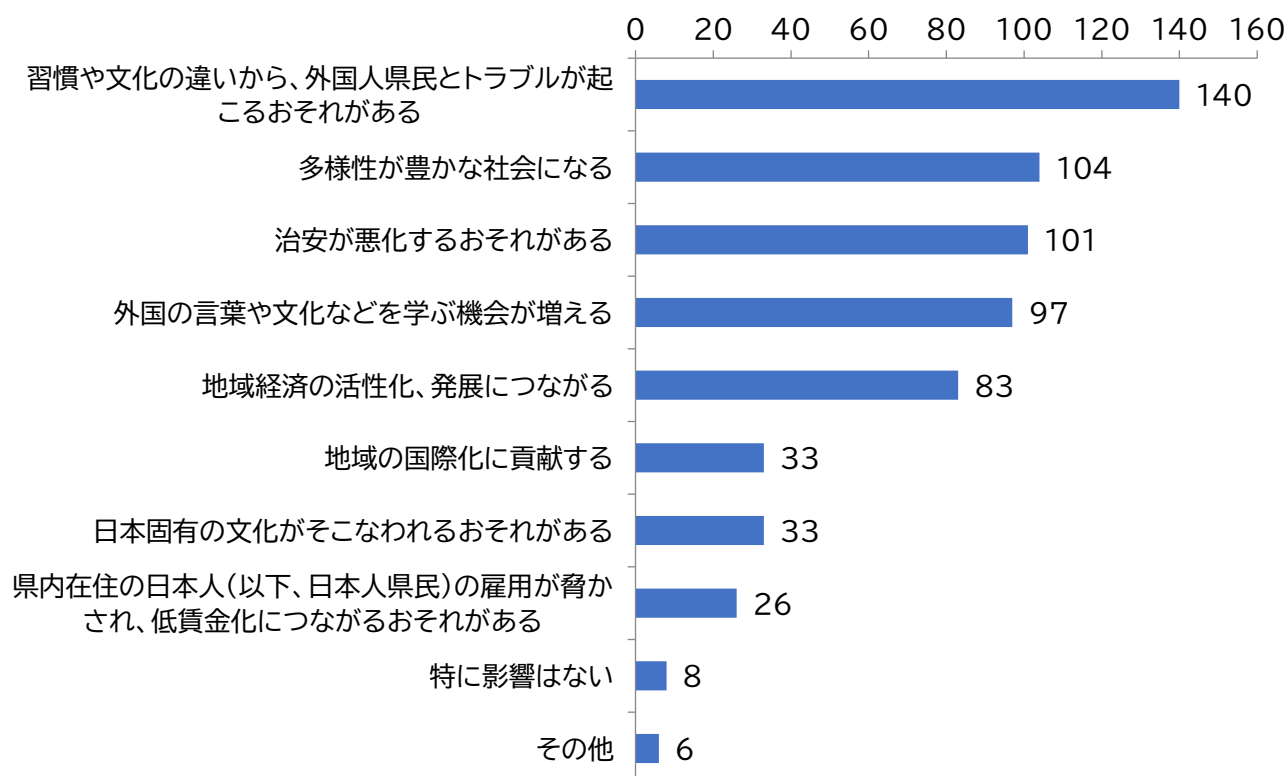
問7 「付き合いがある(あった)」を選択された方におたずねします。あなたは外国人県民とどのような付き合いがありますか。(過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。 n=83)

項 目	人数(人)	割合(%)
友人として付き合いしている(付き合いしていた)	28	33.7
一緒に働いている(働いていた)	28	33.7
あいさつ程度の付き合いがある(あった)	23	27.7
学校で一緒に勉強している(していた)	10	12.0
国際交流のグループで一緒に活動している(していた)	8	9.6
地域の自治会活動や行事と一緒に参加している(していた)	8	9.6
子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)	6	7.2
外国にルーツをもつ家族や親せきがいる(いた)	4	4.8
その他	9	10.8



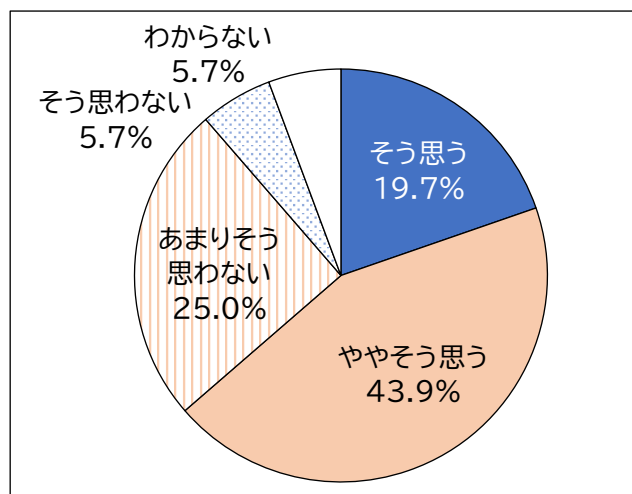
問8 あなたは、外国人県民が地域社会に増えることについてどう思いますか。
(回答チェックは3つまで。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
習慣や文化の違いから、外国人県民とトラブルが起 こるおそれがある	140	53.0
多様性が豊かな社会になる	104	39.4
治安が悪化するおそれがある	101	38.3
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	97	36.7
地域経済の活性化、発展につながる	83	31.4
地域の国際化に貢献する	33	12.5
日本固有の文化がそこなわれるおそれがある	33	12.5
県内在住の日本人(以下、日本人県民)の雇用が脅か され、低賃金化につながるおそれがある	26	9.8
特に影響はない	8	3.0
その他	6	2.3



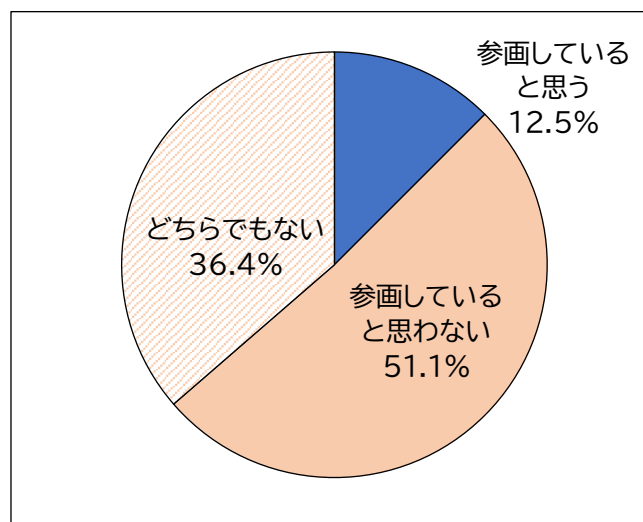
問9 あなたは、外国人県民と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
そう思う	52	19.7
ややそう思う	116	43.9
あまりそう思わない	66	25.0
そう思わない	15	5.7
わからない	15	5.7
合計	264	100.0



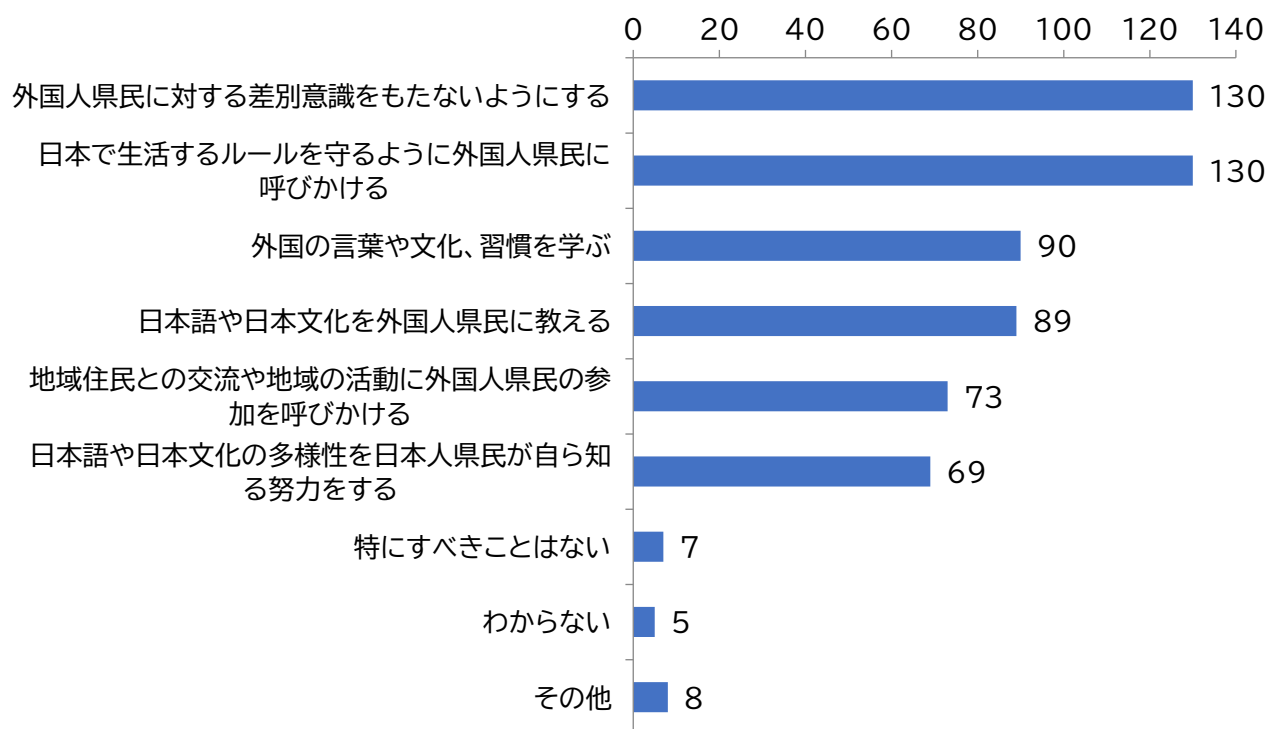
問10 あなたは、外国人県民が地域の一員として、地域の社会活動等(例:自治会などの地縁組織の活動、祭り等の地域行事、学校でのPTA活動、ボランティア活動など)に参画していると思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
参画していると思う	33	12.5
参画していると思わない	135	51.1
どちらでもない	96	36.4
合計	264	100.0



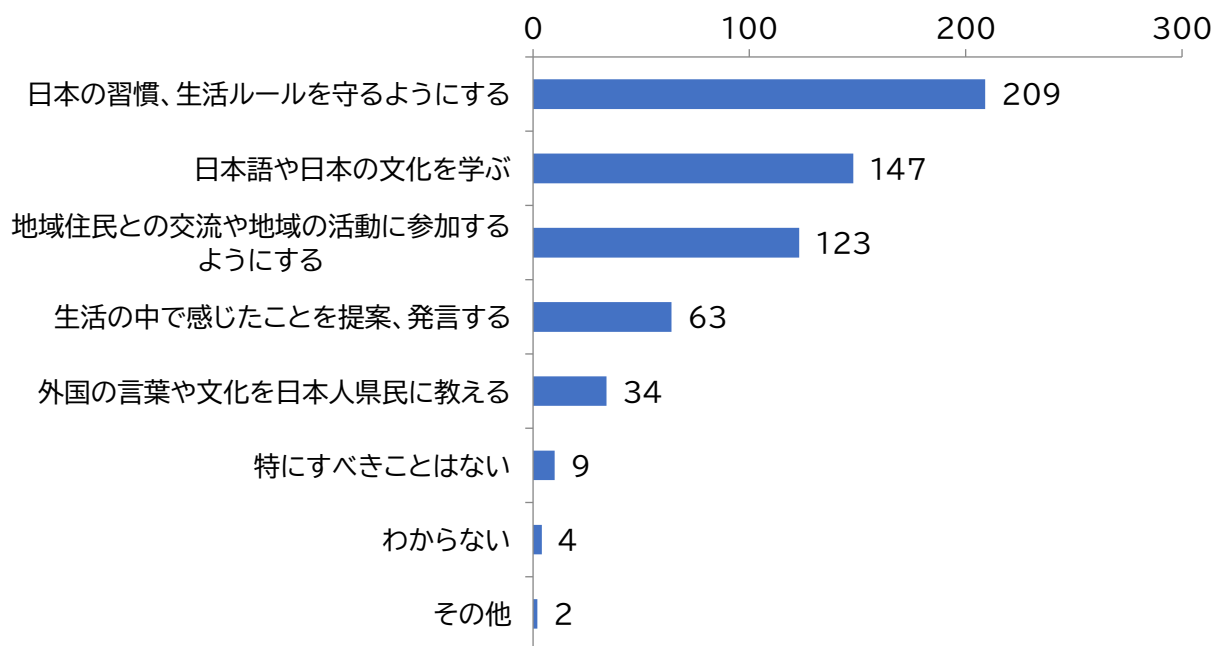
問11 日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「日本人県民」は何をすべきだと思いますか。(回答チェックは3つまで。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
外国人県民に対する差別意識をもたないようにする	130	49.2
日本で生活するルールを守るように外国人県民に呼びかける	130	49.2
外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	90	34.1
日本語や日本文化を外国人県民に教える	89	33.7
地域住民との交流や地域の活動に外国人県民の参加を呼びかける	73	27.7
日本語や日本文化の多様性を日本人県民が自ら知る努力をする	69	26.1
特にすべきことはない	7	2.7
わからない	5	1.9
その他	8	3.0



問12 日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくために、「外国人県民」は何をすべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。 n=264)

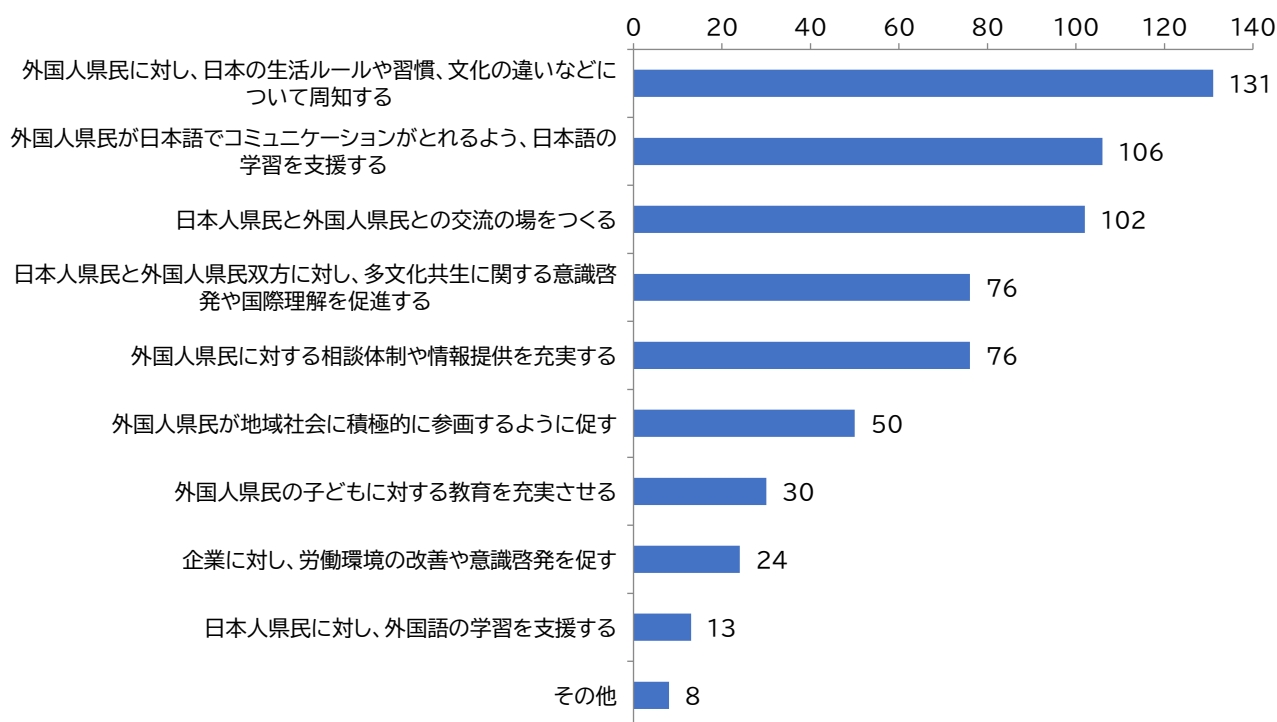
項 目	人数(人)	割合(%)
日本の習慣、生活ルールを守るようにする	209	79.2
日本語や日本の文化を学ぶ	147	55.7
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	123	46.6
生活の中で感じたことを提案、発言する	63	23.9
外国の言葉や文化を日本人県民に教える	34	12.9
特にすべきことはない	9	3.4
わからない	4	1.5
その他	2	0.8



問13 日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし、活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。

(回答チェックは3つまで。 n=264)

項 目	人数(人)	割合(%)
外国人県民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	131	49.6
外国人県民が日本語でコミュニケーションがとれるよう、日本語の学習を支援する	106	40.2
日本人県民と外国人県民との交流の場をつくる	102	38.6
日本人県民と外国人県民双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	76	28.8
外国人県民に対する相談体制や情報提供を充実する	76	28.8
外国人県民が地域社会に積極的に参画するように促す	50	18.9
外国人県民の子どもに対する教育を充実させる	30	11.4
企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	24	9.1
日本人県民に対し、外国語の学習を支援する	13	4.9
その他	8	3.0



問 14 外国人県民と日本語でコミュニケーションが取れず困った経験があれば、その内容をお聞かせください。(任意・200文字以内)(抜粋)

- ・やはり言語が通じにくく感じる。以前余呉湖の周辺で賤ヶ岳登山に向かわれる 2 人の外国の方と会い、(自分も登山するので会話にと思ったが)この先の登山道はスズメバチの巣があるため入山禁止になっている事を伝えようとしたが上手く伝わらず、相手の女性の方がスマホの翻訳機能で何とか理解してもらえた。がやはりスマホなどでの翻訳では時間もかかり、発音も聞き取る限界があり困った事があった。
- ・以前の職場に外国の方が居て分かりやすい単語で説明していましたがそもそも分かろうとする姿勢がなく、仕事を一緒にしなくてはならないのでとても苦労しました。
- ・外国人と一言言っても、いろんな言語を話す人たちがいるので、英語を使っても通じなかったら、こちらとしてはもうどうしたらいいかわからなくなってしまう。
- ・言語習得が不十分なまま、生活をされているから、病院とかの、医療用語や、日本語の理解が不十分ではいけない状況の時に、外国人が困るし、医療現場も困る。通訳が足りないし、通訳も、それだけでは、食べていける給料はないみたいだから、並行して仕事していると、通訳の仕事ができないそう。
- ・公園や学校などで、保護者として話したくても通じないので困る場面が何度かあった。母国語も分からないし確認もできないので、いつもそのままになってしまう。
- ・仕事で、カンボジアの方に、ワンと数字の英語の単語で伝えても、わからなくて、困りました。世界共通だからと思いましたが、学校で英語は、習っていないようでした。その国の言語に合わせてのコミュニケーションが必要だと思いました。
- ・仕事上で、日本の習慣や日本人の物の考え方を理解してもらえずに大変困ったことがあった。
- ・仕事中に怪我をした患者さんに、労災になるかどうか尋ねた時、労災自体知らなくて説明ができず困った。
- ・仕事内容だけでなく、色んな細かい説明に、日本語だけでは伝わらない事があり、日本語も同じ言い方で、別の意味があったりして、難しいです！

- ・子のバイト先に外国人労働者がいる。拙い日本語で接客していると客に伝わらず怒鳴られることがあるそうです。
- ・次年度のマンション自治会の役職をお願いに行った時に中国籍の方に、私は日本語がわからない、ここに住んでいるだけ、と突っぱねられたことがあり、何度も訪問してお話をしたことがあります
- ・職場に最近ベトナム人の方が来ましたが、10 年日本にいる割に会話での意思疎通があまり出来ません。仕事のコツやニュアンスを伝えるのがとても大変です。
- ・職場に多くの外国人がいるが、多国籍のため言語も違えば文化も違うことが問題だった。同じルールのもとで働かなければならないのにも関わらずルールが理解できない、理解していても無視してマイルールを貫こうとするので結局ルール逸脱になってトラブルと化す事があった。
- ・地域に住む外国人に対して挨拶をしても、返ってこないことが多々あります。挨拶はコミュニケーションの基本中の基本ですので、これが出来ないと困ってしまいました。
- ・店舗で、入口付近に座り込む、店内の商品で遊ぶ、棚に登るなど、子どものマナーが気になる場面を見かけました。国籍に関係なく注意が必要だと思いますが、保護者に言葉が通じるか分からず、文化的な違いもあるため声をかけにくく、不安を感じました。
- ・道を聞かれた時に回答ができなかったことがある。学習経験のない言語だととても困るし、街中でも英語併記が少なく、ジェスチャーでも伝えることが難しい場面があった。
- ・特定技能生の方が来られるとはじめはなかなかコミュニケーションがとれないですが、彼らが優秀なので時間と共に出来るようになってきます。
- ・日本語がわからないまま、各種手続き(送金や口座開設)をする場面をみかけ、わからないまま彼らがトラブルに巻き込まれる危険性もあり、日常生活のサポートが必要であると感じました。
- ・夜に騒ぐ、庭でバーベキューを煙すごい中する、ポイ捨てする等、文化的教育的な違い。

・病院の受付として勤務しております。外国人県民の方で体調を悪くして来られる患者さんは日本語が不自由なことが多いのですが、通訳してくれる方が付き添ってくれる場合とそうでない場合があります。その患者さんの職場によって手厚いかどうかの差が出てくるように思います。症状は日本語が不自由だと伝わりにくく、外国人県民の方が安心して受診できる体制があれば良いのにと感じます。病院側としても間違えなく伝えたいので。

問 15 その他、日本人県民と外国人県民が共に安心して暮らし活躍できる地域社会についてご意見がありましたらお聞かせください。(任意・400文字以内)(抜粋)

・「多文化共生」を掲げていますが、実のところ県民(日本人)に対して外国人在住者を従来の県民(日本人)と同じに扱いなさい、ということと理解しています。これに対する不平不満は国または県は想定されていて、こういった活動がなされている。一方で欧州など先駆的に外国人を積極的に受け入れ(移民)、各国で多くの弊害が起こっており移民政策の停止や見直しも聞きます。そもそも県は増加の一途を辿っている外国人、減少の著しい従来の日本人の県民(特に若年層)の現実を踏まえて、十年、三十年、さらには五十年後の滋賀県についてどのような絵を描いているのでしょうか？外国人は減少する日本人労働者の補填という位置付けでしょうか？今は日本人が大多数の人口構成なので、日本人主体、それを前提としたニュアンスを感じますが、将来日本人が少数派となる可能性もゼロではない。そういった将来ビジョンを示さないと、将来の不安が払拭できないと思います。

・このアンケートに回答して、自分自身が県内に生活している外国人に対してマイナスのイメージを持っていると感じた。交通マナーが気になったり、住処の塀に座って話をしたりといった場面には遭遇するが、コミュニケーションを取ったことはあまりない。外国人に対する差別意識はないつもりだが、接点が道で見かけるマナーがあまり良くない人たちばかりだと思う。自らも外国の方々と挨拶したり気持ちよく近所付き合いができるようになりたいし、自分の子どもにも差別意識がなく外国人の方々と交流してほしいとおもう。

・ボランティア活動を通して、外国人県民と接してきたが、自治体が県民に負担をかけすぎているように感じる。例えば、日本語教室では、自治体から場所や経費は出していただくことが多いが、実際の運営にあたる当番の仕事、会議、イベントの企画など、ほとんどがボランティア任せであることが多い。もちろん、ボランティアとは自ら進んで何かをしようと思う人たちが集まって活動することではあるが、県として政策の一つに上げるなら、ボランティアに丸投げにせず、かじ取りくらいは自治体が責任を持ってやってほしいと思う。また、外国人県民の中には、日本の習慣やルールなど、自分から学びたいと思ってくれる人も私の周りには多いので、県なり市なりが主体となって外国人が転居してきたときに窓口等で日本のルールや習慣を直接教える機会を作ってほしいと思う。そうすることで、外国人県民の「知らなかった」を防ぎ、ルールやマナーを守る意識が高まると思う。

・日本語でも関西に住んでいたなら関西弁とかも教えてあげたらもっとコミュニケーションのツールになって楽しく会話が出来るのではないかと思います。

- ・まずは外国の方への差別、偏見をなくす必要がある。また日本人と外国の方の交流の場が 1 番大切ではないかと思う。交流によって交わりや、言語の壁を乗り越えるチャンスに繋がるので県はもちろん、各市及び自治体が動かないと何も進展していかない。
- ・外国の方とお話しする中で、日本の細かなルールが分からないという事をよく聞きます。夜は何時くらいからは騒いだらダメなのかとか、ゴミ箱のない街中ではゴミはどう持ち帰るのかなど、日本人だったら当たり前に分かる事も文化の違い等で分からずすれ違いが起きてしまうことが多いとの事でした。外国人の方が日本に来られた時にこの方に聞いたら手続きの仕方とか教えてくれるって方がいたり、気軽に話しかけられる日本人がいるといいのかなと思いました。
- ・外国人に望むことは、日本の文化を理解し、日本語を学んでほしいということ。仕事での外国人の対応は時間もかかるし、本当に疲れる。日本語を勉強しなくても、外国人コミュニティで生活が完結してしまうのだと思うが、外国人の対応に時間が取られて日本人の対応ができないことがある。
- ・外国人を労働の担い手として目論むなら賃金待遇を日本人同等にしなければこの設問は解決の入り口にも立てないと思う。冷遇をしては怨嗟が広がるだけに感じる
- ・外国人県民には、日本で暮らすなら日本文化を尊重し、出身国の考えややり方を見直す事をまず教育すべき。行政が共生と言って出身国の文化を日本文化と対等として尊重し受け入れる趣旨を誘導するアンケートはすでに答え有りきでおかしい。文化の違いが考えの相違や誤解を生む原因となるが、地域における主文化は日本文化である事を理解してもらわないと共生はあり得ない。
- ・外国人県民も不安を持ちながら生活していると思う。彼らの不安な事や助けてほしい事、知ってほしい事などを知りたいし、何か手助け出来る事があればしたいと思う。
- ・近年、外国人を排除する意見を聞くことが増えてきましたが、外国人の労働がないと滋賀県だけでなく、日本全国回らなくなると考えています。外国人は、人口減少による労働者不足を支えてくれています。いい関係を継続するには、日本で孤立させない、仕事を無くさないお手伝いをするべきだと思います。自治体の日本語講座もいいと思いますし、逆に日本人が英語以外の言語を学ぶ機会があってもいいと思います。個人的には、できるだけ外国人が営む地域のお店を利用し、交流し、お互いの言葉を教え合ったりしています。せっかく日本を選んで来てくれている外国人県民の方々ともっと交流できたらと思います。排除の声を聞くと悲しくなります。

- ・小学生のときに日本語は大体話せる外国人の同級生がいました。そのときに印象に残っているのは当時の担任の先生の言葉です。それは、その外国人の子の家庭訪問に行った際に両親は日本語を話せなかったため何も理解できなかった。という話です。このことから、外国人の子供も含め、県内に移住している外国人には無料で、日本語教室を行うなどできないのか、と考えました。難しければ、他の対策で外国人や県民または日本人が言葉に困ることなく自由に対応できる場を作ってほしいなと思いました。最後まで読んでいただきありがとうございました。
- ・人口減少が進む中、外国人住民との共生は避けて通れません。しかし、言葉や文化の違いによる迷惑駐車やゴミ問題などの地域トラブルの解決を、高齢化に悩む自治会や日々の業務で手一杯の中小企業へ丸投げする行政の姿勢はあまりに無責任です。受け入れの理念ばかりを語り、現場に我慢や負担を強いるだけの制度は変えなければなりません。滋賀県には、単なる助成金支給に留まらず、転入時に日本のルールや地域のマナーを徹底的に教え込む「滋賀で暮らす心得」の対面教育の場やツール作成を強く求めます。さらに、自治会を孤立させないため、トラブル発生時に通報すれば多言語相談員が企業や当事者へ直接指導に赴く「自治会専用の駆け込み窓口」の設置が不可欠です。外国人に地域社会の規律を守る義務を責任持って教育すること。そして、困っている地域住民を守る実効性のある盾を行政が用意すること。これらがあって初めて本当の多文化共生が成り立ちます。
- ・先般移民国家であるカナダで、多様性に関し日本との大きな格差を感じた。本気で推進するならば、推進の目的や必要コストも含めて、もっと突っ込んだ合意形成が必要である。また、行政のやるべき項目も多岐にわたるので、先進地域との人事交流を自ら行うなど、もっともっと本気の長期的な取り組みが必要だ。
- ・大津市に住んでいますが、よく東南アジア系の外国の方が多い印象で、道ですれ違ったり、スーパー等で働いておられる姿を目にします。みなさん穏やかで現在は安心して暮らしていますが、このまま外国の方が増えていくと、他県の外国籍の多い市町村の騒音や犯罪トラブルなどを SNS で目にする機会もあり、宗教や価値観の違いから、秩序やルールが守られていくのではと心配しています。
- ・悩ましいところだなと思います。私の親戚はアメリカ人やブラジル人と婚姻し、海外へ行きましたが、逆に日本で生活することになったら、おそらく生活文化や就職など苦労したのではと感じます。日本は世界基準から外れているように感じるので……。

- ・同じ職場や行事活動で一緒になった外国人県民の方はみんないい人でした。ですが、街中で団体で歩いてるのをみると少し怖いです。企業勤めの団体は毎朝礼儀正しく自転車通勤して、買い物も上手にされていて馴染もうとしてくれていて安心する一方、一部の外国人居住エリアが荒れていると聞くのも事実で、偏見だとわかっていても子供には近づかない方が無難だと教えています。これは日本人が海外に行っても差別されることがあるように、知らないから怖い、嫌だは根本的に変わらないと思います。それを仲良くしましょうと行政が派手にやればやるほど批判の声は大きくなるんじゃないかと思います。その地域の昔からの行事に、外国人県民が興味を持って歩み寄ってくれる姿勢がゆっくりですが双方わかりあえる道のひとつじゃないかと思います。
- ・日本人と外国人が地域で共生していくためには、外国人が日本の文化を知り最低限の日本のルールを守ることが必要だと思う。日本では行政などが外国の文化を知り多様性を受け入れることばかりを進めてるいるように感じる。知り合った外国人にも良い人がたくさんいたし、外国人を差別する気は全く無い。しかし、行政やマスコミはなぜか日本に来た外国人のルールを日本人が許容することが多様性を認めることと言っているように感じる。多様性はお互いの違いを知ることであり、我慢することではない。地域が外国人を受け入れるためには、地域住民が安全・安心して暮らせるように、日本で生活するためには何を知り、何を守らないといけないかを、受け入れる政府・行政や企業がしっかり伝えることが重要だと思う。そうすることで地域の住民が安心して外国人と触れ合い、活躍してもらえる機会もできると思う。
- ・日本人は外国の方に対して説明や話をする時はゆっくりわかりやすい言葉で丁寧に話すべきだと思います。伝わらなければ翻訳アプリなども活用して分かってもらう努力は必要だと思います。外国の方は日本語がとても難しいと思いますが分かるように努力することは必要だし、わからなくても「うん」「はい」と言ってしまうがちだと思いますが、分からなければ「分からない」と言ってほしいです。
- ・両県民の交流に果たす自治会の役割は大きいと思う。日本の文化を理解してもらう、お互いの相互理解の場、住んでいる地域の一員としての意識の醸成などの機会を地域社会が提供していく必要がある。日本人同士の交流も少なくなっている現状を考えると地域社会の活性化は喫緊の課題であると考え。地域であれば、居住環境がほぼ同じであることから、交流する機会を設定し易いのではないかと。小回りが利くことからきめ細やかな対応が可能なのではないか。自治会の存続が危ぶまれる中、外国人県民も交えた地域社会づくりが出来ないものだろうか。